



平成30年7月6日
海上保安庁

大蛇行が続く黒潮の観測を実施 ～4月には過去2番目の位置まで流軸が南下～

昨年8月に発生した黒潮の大蛇行^{*1}は現在も継続しており、4月には北緯30.2度まで流軸^{*2}が南下しました。6月22日、23日には海上保安庁測量船「昭洋」による観測を行い、北緯31.0度に流軸があることを確認しています。

4月の流軸の最南下位置は、1965年（昭和40年）以降では過去2番目となるもので、過去の傾向から大蛇行が長期化する可能性もあります。

○測量船「昭洋」による、6月22、23日の観測結果は以下のとおり。（図1参照）

- ・最南端流軸位置：北緯31.0度
- ・最南端流軸付近流速：3.0ノット（約1.5m/s）

この最南端流軸位置は、昨年11月に測量船で観測した位置より約30km南下しています。

○当庁発行の海洋速報（4月）による結果は以下のとおり。

- ・最南端流軸位置：北緯30.2度

この最南端流軸位置は、1965年（昭和40年）以降、過去2番目の南下位置となります（図2）。

黒潮の大蛇行は、1965年（昭和40年）以降、今回を含めて6回発生しており、流軸の最南下緯度が南に行くほど大蛇行が長期化する傾向があります（表1）。



測量船 昭洋

総トン数 3,000トン

全長 98メートル

使用機器 多層音波流速計

海上保安庁では、黒潮の大蛇行の状況を正確に把握するために、今後も観測を実施する予定です。

日々の黒潮の流況は、海洋情報部及び気象庁のwebページをご確認ください。

○海上保安庁海洋情報部webページ「海洋速報&海流推測図」

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/KAIYO/qboc/index.html>

○気象庁の「黒潮の大蛇行関連ポータルサイト」

https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/db/kaikyo/etc/kuroshio_portal_201710.html

*1黒潮大蛇行 「潮岬で黒潮が安定して離岸していること」、「東海沖（東経136～140度）の流軸の最南下点が北緯32度より南に位置していること」の2つの条件を満たした場合

*2流軸 海流の最も強いところ

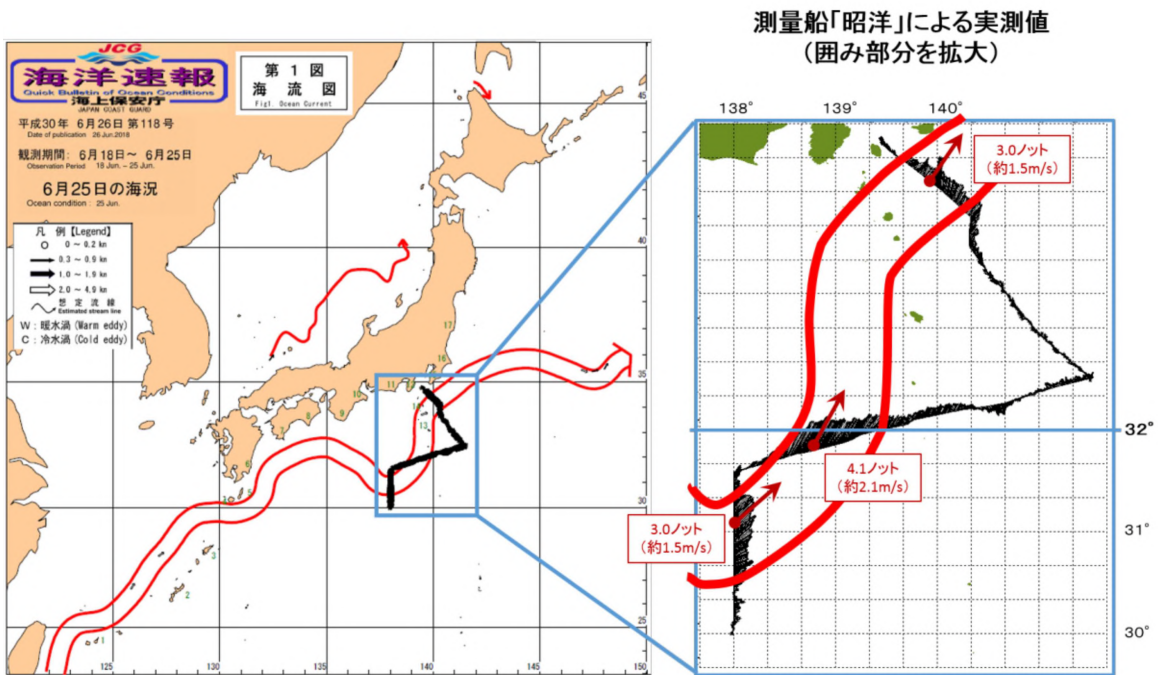


図1 測量船「昭洋」による海流の実測値(6月22日-23日)



図2 海洋速報による黒潮大蛇行域における流軸の最南端位置の変化

表1 1965年以降に発生した黒潮大蛇行の継続期間と流軸の最南下緯度

開始月	終了月	継続期間	期間中の最南下緯度
1975年8月(昭和50年)	1980年3月(昭和55年)	4年8ヶ月	北緯30.0°
1981年11月(昭和56年)	1984年5月(昭和59年)	2年7ヶ月	北緯31.0°
1986年12月(昭和61年)	1988年7月(昭和63年)	1年8ヶ月	北緯31.3°
1989年12月(平成元年)	1990年12月(平成2年)	1年1ヶ月	北緯31.6°
2004年7月(平成16年)	2005年8月(平成17年)	1年2ヶ月	北緯31.3°
2017年8月(平成29年)	継続中	11ヶ月(継続中)	北緯30.2°

[参考]有識者のコメント

今回の観測結果について、二人の有識者にコメントを頂きました。

●高知大学 黒潮圏科学部門 寄高博行 教授

「現在の黒潮の流路や沿岸水位の状況から、大蛇行はしばらくは継続すると推測されます。」

●東京海洋大学 海洋環境科学部門 長井健容 助教

「黒潮の大蛇行により、房総半島南岸では、通常より黒潮が接岸し、本来外洋（黒潮）に生息する生物が沿岸に寄って来ます。東京湾で見られたクジラについても同様と考えられます。」

また、遠州灘南方では、冷水渦が形成され、カツオなど暖流系の魚の漁場が形成されにくくなります。

八丈島周辺では黒潮の南側となり、暖流系の魚の漁場が形成されやすくなります。」